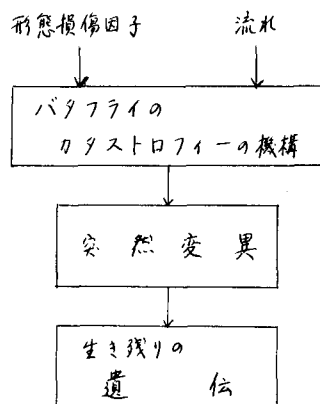


九州電力株式会社総合研究所 村瀬 次男

第1表

形態		構成員	流れ
河床波		砂 礫	河川の流れ
有機体	細胞	蛋白質	リンパ流
	種	自然界での生物個体	食 物
	社会組織	社会での生物個体	組織運営の必需物資



第1図

1. 第1表は、有機体のハイアラーキーの表である。

step length のあるのが河床波で、step time のあるのが有機体である。河床波は、有機体の力学モデルとして極めて重要で興味深い存在である。

2. 第1図は、体制変化の機構を示すものである。

発ガンも、向上進化も、体制の変化である。

有機体の体制変化には、次の三つが必要である。

a. 非平衡の流れの定着

b. a. をもたす連続の形態損傷

c. 時 間

3. 第2図は、ガン細胞の浸潤のメカニズムである。

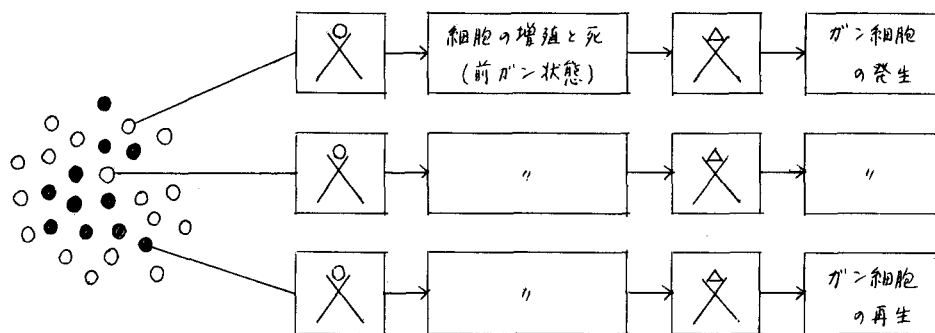
発ガン（細胞のガン化）は、エイジングの急勾配の流れに対する体細胞の形態および行動の適応現象である。

癌は、死すべき生命と不死の生命との共存による不合理であり、生命の形態の病気である。

癌は、熱力学的産物である。

結 語

癌の正体が永い間どうして判らなかつたか。著者は、今なら確言できる。それは、カタストロフィー理論、サージタングの安定理論、熱力学の知識、河床波の知識、そして生命科学の知識の五者が一つの頭の中で出会うことが必要であつたからである。



第2図